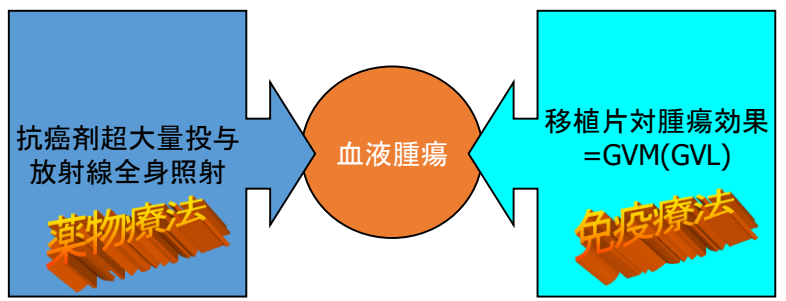


(1) 移植によって血液腫瘍を治す試み

ステップ1 血液腫瘍には色々な種類がありますが、移植が有効な理由を考え、成績を調べて、対象疾患と治療法を決めます。

当科の臨床研究成果

- 治癒が難しそうな悪性リンパ腫の方の初回治療の一環としての自家移植
Int J Hematol (2014) 99:162-168
- 急性骨髄性白血病と急性リンパ性白血病では選択すべき提供者が違う?
Biol Blood Marrow Transplant.(2015) in press
- 同種移植におけるNK細胞の免疫作用
J Hematopoietic Cell Transpl (2014) 3:12-26



ステップ2 移植のための造血幹細胞は色々な起源が可能で、疾患の状態やドナーの有無で決定します。

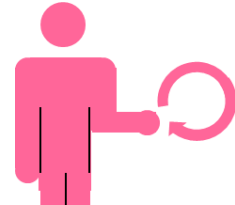
当科の臨床研究成果

- 自己末梢血幹細胞採取方法のための前処置プロトコール(IVE療法)
論文準備中

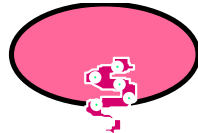
① 骨髄(他人)から全身麻酔で1L近く採取されます。



② 末梢血から自己、他人の両方可血液体外循環で必要なだけ採取します。



③ 臍帯血採取量は限られていますが、出産は無尽蔵です。

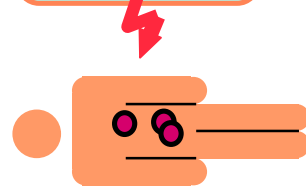


ステップ3 前移植によって拒絶に働く患者側の免疫細胞を排除します(残存腫瘍細胞の根絶も目指すのがフル移植、目指さないのがミニ移植)

当科の臨床研究成果

- ウェゲナー肉芽腫症を合併した急性骨髄性白血病への同種ミニ移植
Int J Hematol (2006) 83:262-265

超大量抗がん剤放射線療法



ステップ3 移植後に特有な合併症との闘い

① 感染症

当科の臨床研究成果

- フサリウムというカビに対する治療手段
J Infect Chemother. (2013) 19:1173-1180
- 移植後EBウイルスによる肺感染症の治療
Haematologica (2007) 92:e49-52



前処置前よりも低い免疫力なので細菌、真菌、ウイルスなどが攻めてきます。

② 生着不全

当科の臨床研究成果

- 臍帯血移植後の血球貪食に対する抗がん剤治療の試み
Int J Hematol (2011) 93:551-554

移植細胞のチカラ不足。あるいは免疫作用による排除です。

③ 移植片対宿主病

当科の臨床研究成果

- ドナー由来で増幅した間葉系幹細胞を使いGVHD治療の試み
Cytotherapy. (2010) 12:265-268

免疫抑制剤の投与にかかわらず皮疹、肝障害、腸炎、肺障害などがおきます。

④ 再発

当科の臨床研究成果

- 同種移植後に再発した濾胞性リンパ腫に対してインターフェロンを用いた治療
Bone Marrow Transplant (2011) 46:448-449

移植後も最も怖いのは再発です。再移植を試みることも…

(2) 血液腫瘍に関する研究

リンパ系腫瘍

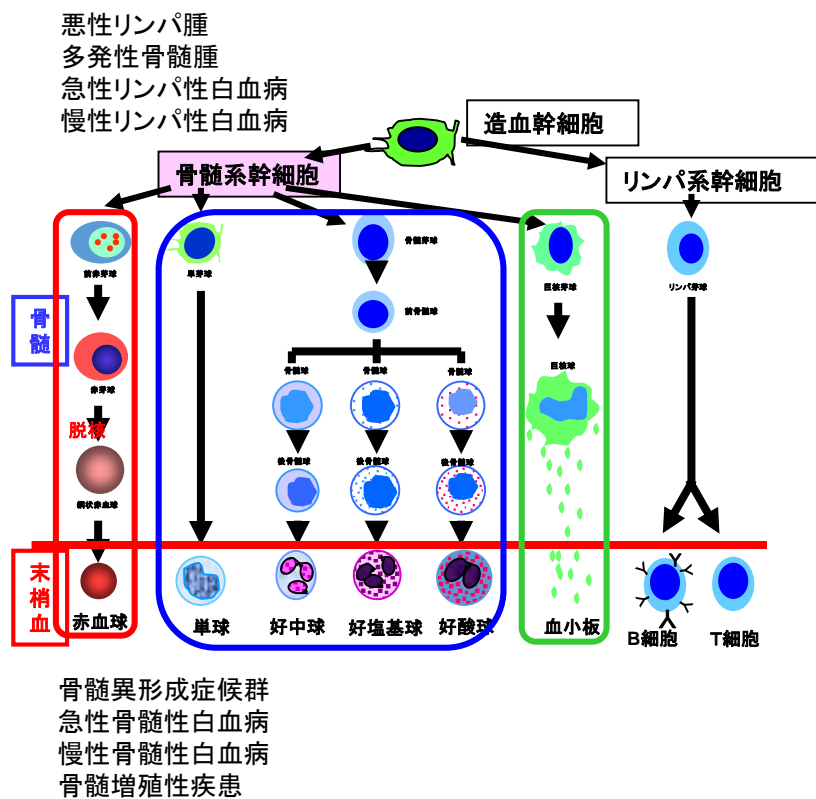
当科の臨床研究成果

- 低悪性度濾胞性リンパ腫における新しい予後因子の解明
Int J Hematol (2014) 99: 737-742
- HIV感染者のリンパ腫治療の知見
Intern Med (2013) 52: 2265-2269

骨髄系腫瘍

当科の臨床研究成果

- Ph1変異を獲得して急性骨髄性白血病に進行した骨髄異形成症候群
Eur J Haematol (2013) 90: 245-249



(3) 血液腫瘍以外の疾患に関する研究

当科の臨床研究成果

- 再生不良性貧血の治療過程のPET評価
臨床血液 (2011) 52(2):84-86